



1

ムエンベ博士とオマスワ博士 野口博士ゆかりの地を訪ねる

野口英世博士の功績に光を当て、アフリカのための医学研究や医療活動の分野などで業績を挙げた医療従事者などを表彰する「第3回野口英世アフリカ賞」の授賞式は8月30日、東京都の明治記念館で行われました。

野口英世アフリカ賞は、ノーベル賞に匹敵する賞として政府が2006（平成18）年に創設。エボラウイルスの研究に貢献したコンゴ出身のジャン・ジャック・ムエンベ・タムム博士と、保健および医療制度の構築に貢献したウガンダ出身のフランシス・ジャーバス・オマスワ博士に安倍晋三首相から賞状と賞金が贈られました。

9月1日には、両博士が本町を訪ね。両博士は、ホテルリステル猪苗代で県による国際交流特別親善大使の認証書授与式と内堀雅雄知事主催の歓迎昼食会に出席した後、野口英世記念館を訪れました。

両博士が同館に到着すると、川桁謡真鼓楽会による太鼓の演奏で歓迎。町内の小中学生や町国際交流協会、三城潟観光協会の会員らがコンゴ、ウガンダ両国の小旗を振って出迎えまし

た。また、猪苗代小学校の武上千紘さん、渡部由愛さん、藍原里乃さん、佐藤菜花さんが博士らに花束を贈呈しました。

町主催による歓迎セレモニーでは、前後公町長が「両博士の来町を歓迎します。野口英世アフリカ賞がアフリカをはじめ人類全体の保健と福祉の向上に寄与されることを願います」と歓迎のあいさつを述べました。

ムエンベ博士は「野口博士は日本だけでなく、アフリカにとっても重要な人です。私たち研究者のひらめきの源になっています。野口博士の生家を訪れることができうれいす」とあいさつ。オマスワ博士は「保健制度の構築に取り組んできましたが、野口博士の業績から着想を得たものもあります。この後に記念館を見学できることを楽しみにしています」と話しました。

また、猪苗代中学校と東中学校の特設合唱部の生徒20人が「野口英世の歌」を披露し、両博士を歓迎しました。

引き続き両博士らは同館内を見学。野口博士の生家や展示資料などを見て回りました。



2



3

1_野口英世博士の生家前で記念撮影を行うムエンベ博士(左から5人目)とオマスワ博士(右隣)ら 2_両博士に「野口英世の歌」を披露する猪苗代中・東中特設合唱部の生徒 3_5_竹田理事長の案内で館内を視察 4_猪苗代小児童から歓迎の花束を受ける両博士ら 6_町国際交流協会や三城潟観光協会の会員など多くの町民が両博士の来町を歓迎した



4



6



5